

有床義歯咀嚼機能検査

- 算定要件
- 施設基準
- 適応症
- 咀嚼運動検査の準備と手順
- 咀嚼能力検査の準備と手順
- 咀嚼運動・咀嚼能力の評価

算定要件

- | | |
|-------------------------|------|
| 1 下顎運動測定と咀嚼能力測定を併せて行う場合 | 480点 |
| 2 咀嚼能力測定のみを行う場合 | 100点 |

- ・有床義歯新製時に咀嚼機能検査を行った場合に算定する。
- ・1について、新義歯装着前に2回以上行った場合は、1回目の検査を行ったときに限り算定する。
- ・1について、新義歯装着後は、新義歯装着日の属する月から起算して6月以内に限り、月1回を限度として算定する。
- ・2について、1を算定した患者において、新義歯の装着日の属する月から起算して6月以内に限り、月1回を限度として算定する。
- ・2については、1を算定した月は算定できない。

施設基準

検査を行う十分な体制が整備され、十分な機器を有すること

体制：歯科補綴治療に係る専門の知識及び3年以上の経験を有する歯科医師の1名以上の配置

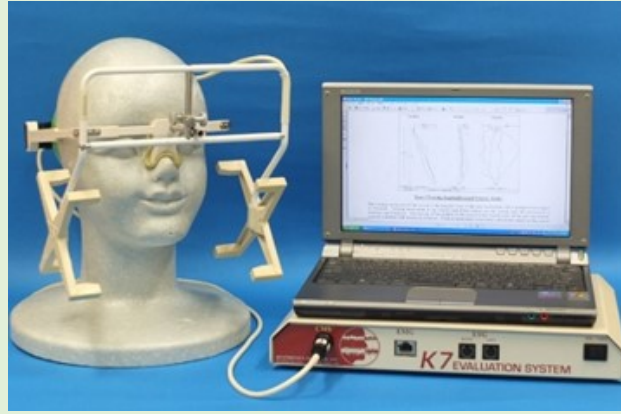
機器：三次元的歯科用下顎運動記録測定機器とグミゼリー咀嚼時のグルコース溶出量の測定装置

下顎運動記録測定機器



MVT

(モーションビジットレーナー)



MKG

(マンディブラーキネジオグラフ)

グルコース測定装置



GS-Ⅱ

(グルコセンサーⅡ)

適応症

- 総義歯
- 9歯以上の局部義歯かつ当該局部義歯以外は臼歯部で垂直的咬合関係を有しない

咀嚼運動検査の準備

- ① 被験食品は義歯に付着しないチューインガム、あるいはグミゼリーを用いる
- ② グミゼリーは冷蔵庫での保管が望ましい
(記録前に常温に戻しておく)
- ③ 被験者に検査の手順を説明する
(咀嚼はなるべく無意識に行うよう指示する)
- ④ 被験者に被験食品を自由に咀嚼してもらい、被験食品の咀嚼に慣れさせ、左右側のどちらが咬みやすいかを尋ね、主咀嚼側の選定をしておく

咀嚼運動検査の手順

MKG (マンディブラーキネジオグラフ)による記録

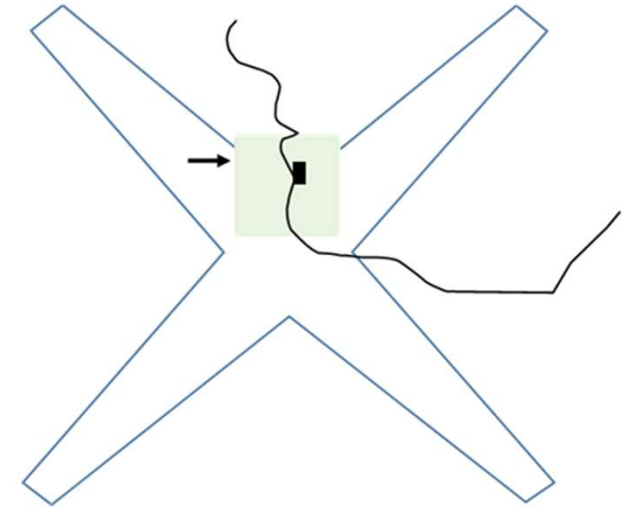
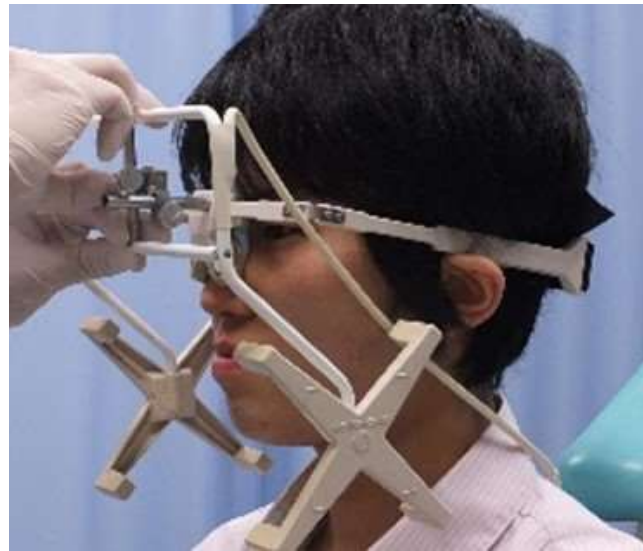
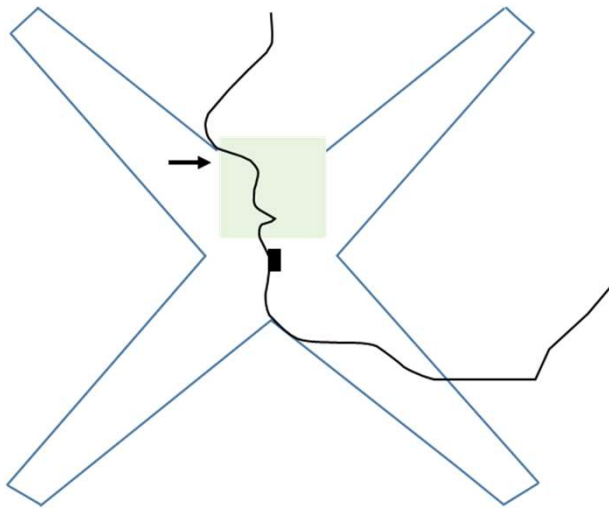
- Scan Numberを設定 (8 Chewing Pattern)
- Gainを設定 (5mm/division)
- 下顎切歯点に磁石を付着
- 頭部にセンサーを装着し、センサーと磁石とを位置決め
- 記録を開始し、被験者に咀嚼開始を指示.
- 記録終了後、ファイル名を入力、データを保存.



歯面を乾燥させ、下顎切歯点に磁石を付着する



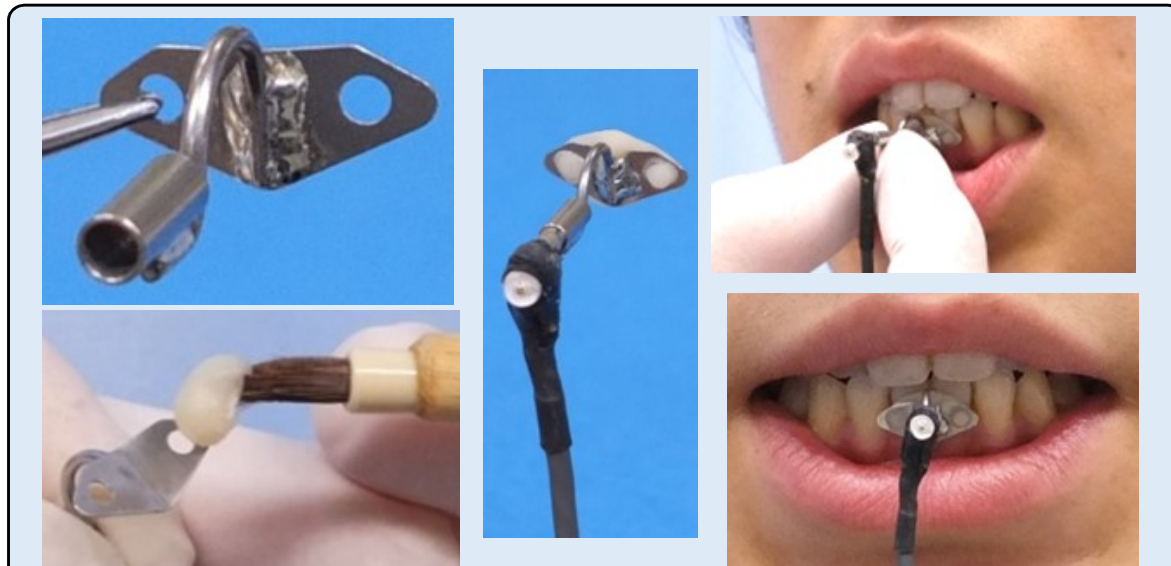
頭部にセンサーを装着する



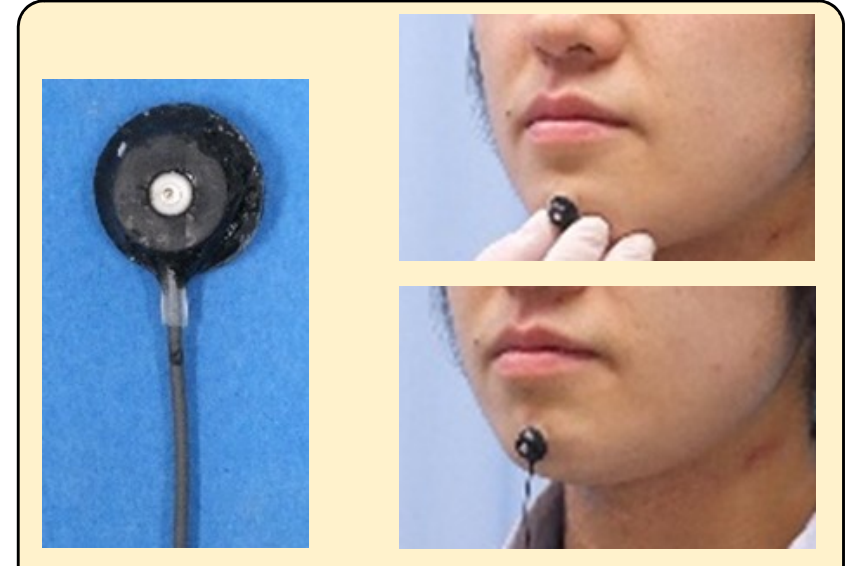
センサーと磁石との位置決め: 緑色の枠(矢印)にマグネットの印が収まるようにPC画面をみながらセンサーを調整する

MVT(モーションビジットレーナー)による記録

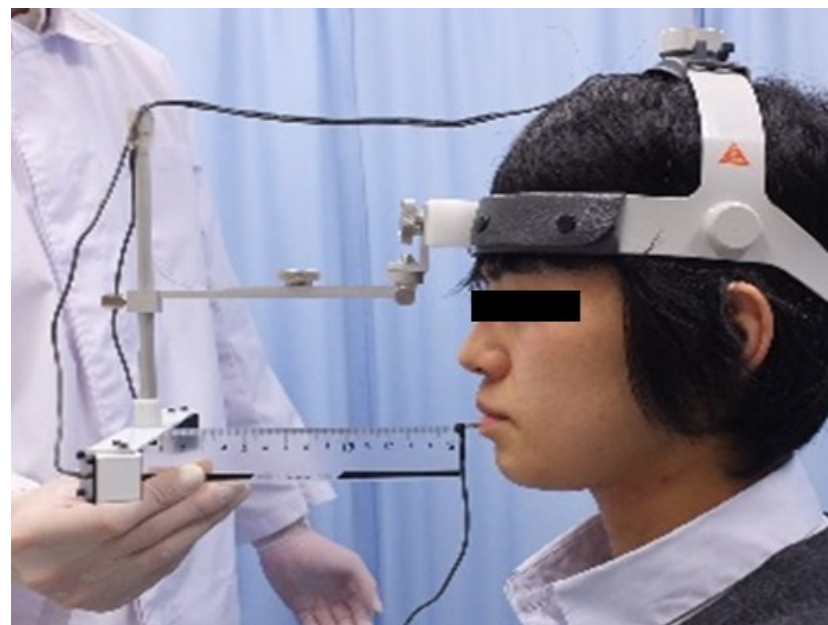
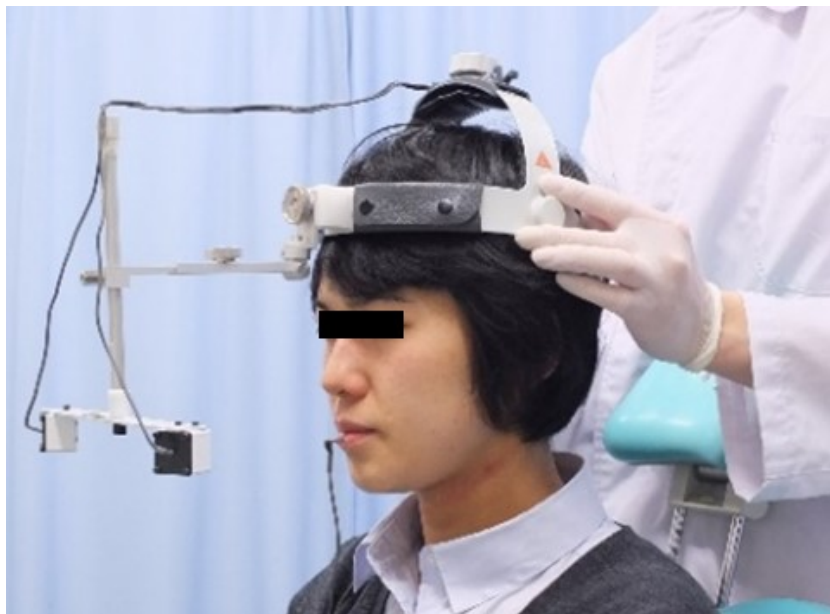
- ・下顎切歯点あるいはオトガイ部にLEDを付着
- ・頭部にヘッドマウントカメラを装着し、カメラとLEDとの距離を確認
- ・LEDがOFFの状態ですべての測定環境を確認
- ・LEDをONにし、記録状態を確認
- ・記録を開始し、被験者に咀嚼開始を指示
- ・記録終了後、ファイル名を入力、データを保存



シーネに常温重合レジンを盛り、歯列を乾燥させ、シーネを下顎切歯部に装着



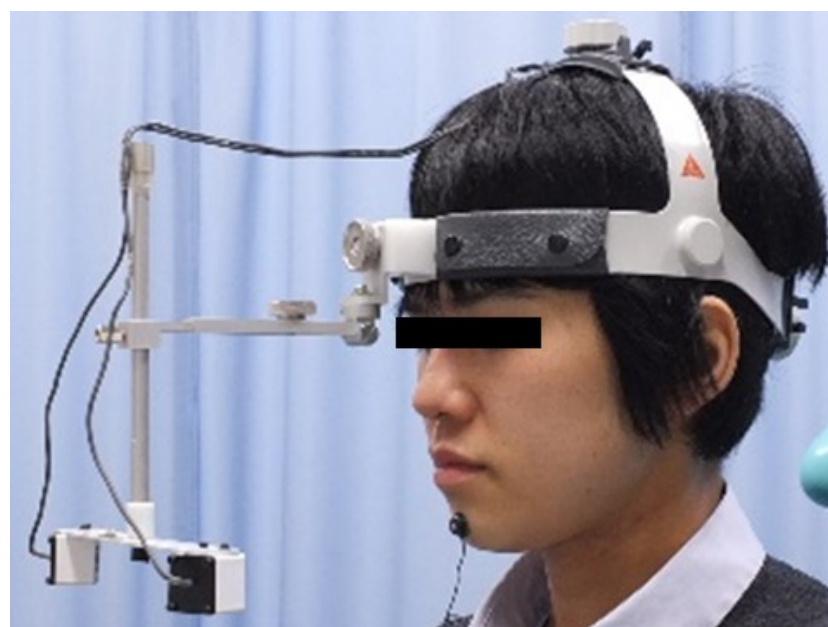
皮膚用のLEDの裏側に両面テープを付け、オトガイ部に装着



頭部にヘッドマウントカメラを装着し、カメラとLEDとの距離を15cmにする



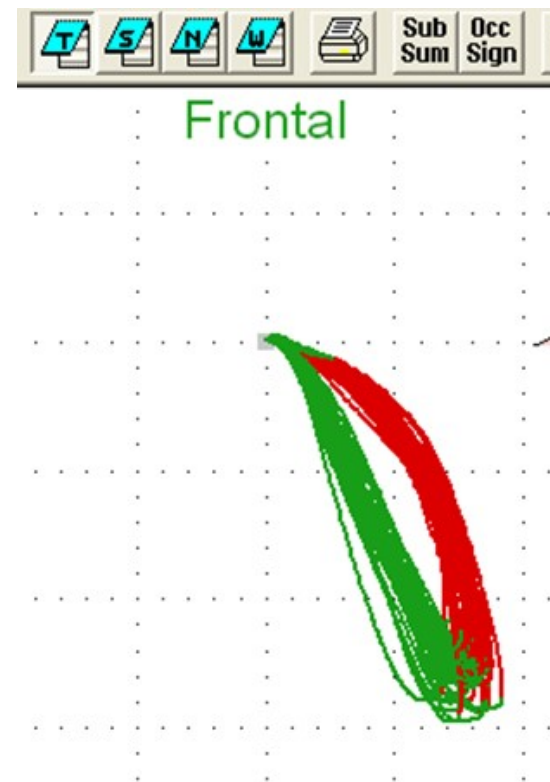
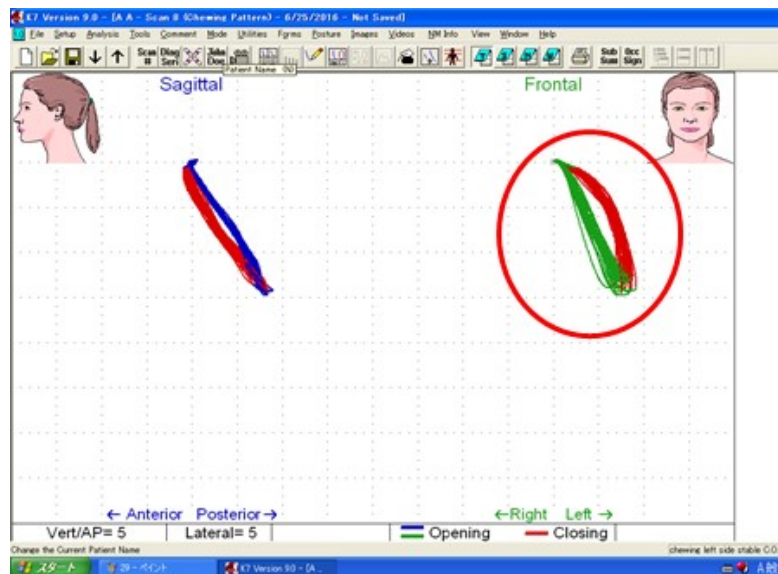
下顎切歯点にLEDを付着した場合



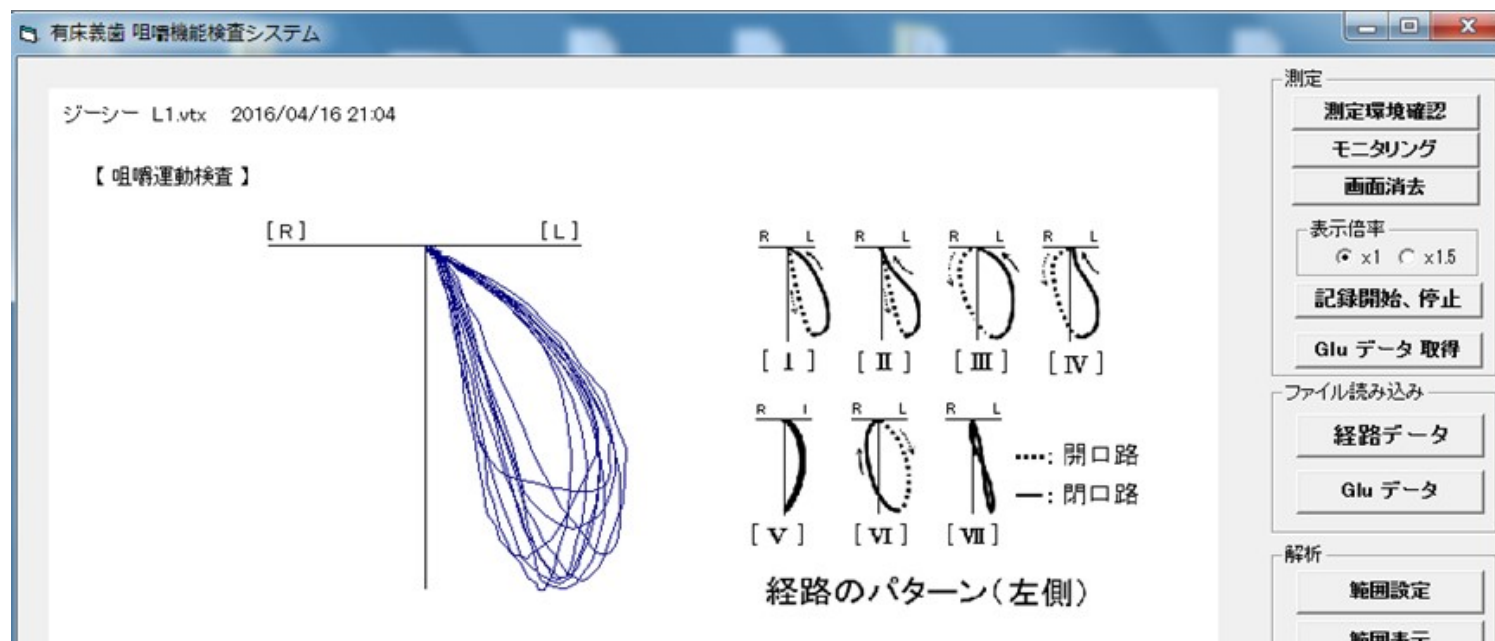
オトガイ部にLEDを付着した場合

咀嚼運動経路の評価

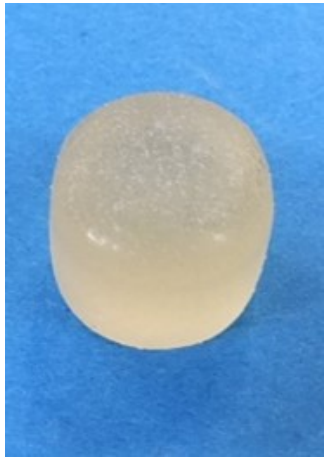
MKGの場合



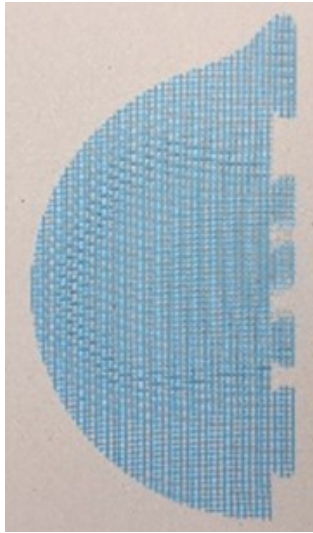
MVTの場合



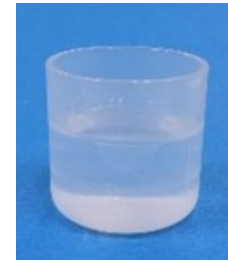
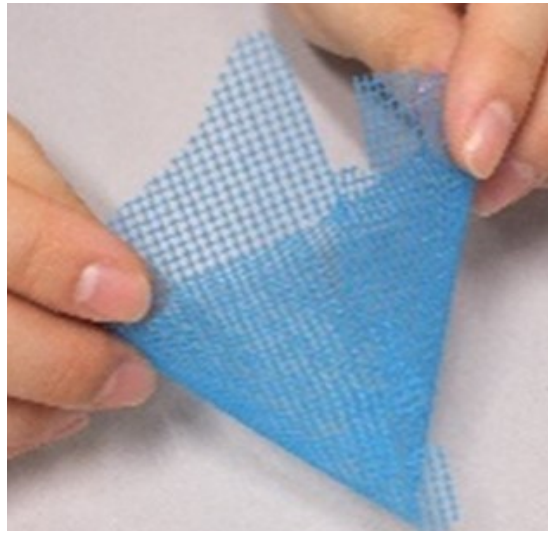
咀嚼能力検査の準備



グミゼリーを
1個用意



篩を準備



10 mlの水をコップに用意



- グミゼリーは常温での保管もよいが、冷蔵庫での保管が望ましい(記録前に常温に戻しておく)
- 篩のつなぎ目に遊びがないことを確認する
- 検査の手順を説明する
- 被験食品を自由に咀嚼してもらい、被験食品の咀嚼に慣れさせる。この際、左右側のどちらが咬みやすいかを尋ね、主咀嚼側の選定をしておく

咀嚼能力検査の手順



グミゼリーを主咀嚼側
で20秒間咀嚼させる



咀嚼後、水10 mlを口に含み、グミと
一緒に篩に吐き出してもらう



コップから篩を
除去



センサーに測定
用チップを挿入



コップを軽く攪拌して濾液をブラシ
で採取し、チップに点着



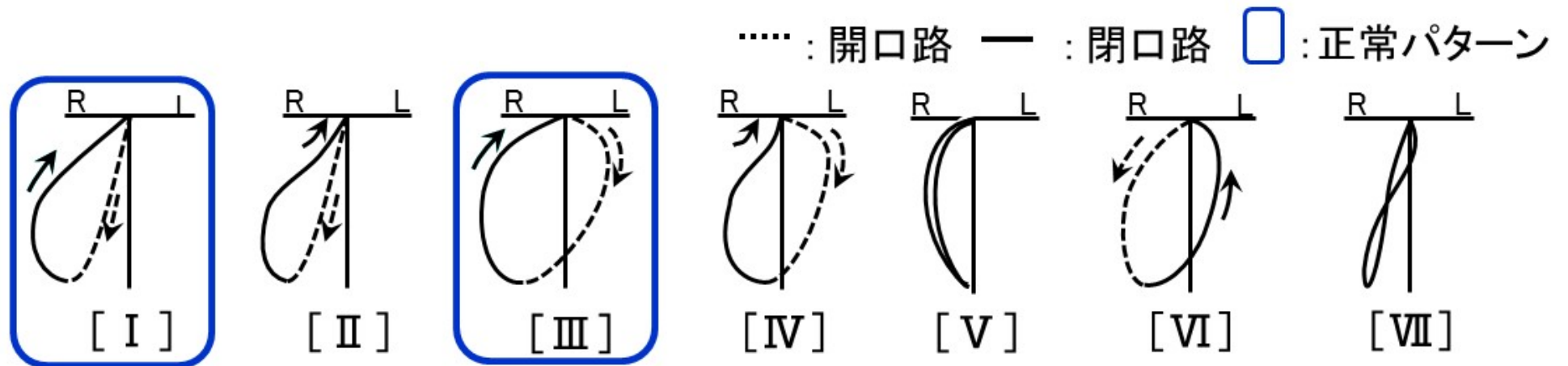
咀嚼運動の評価

経路のパターン分類の評価

パターン I と III を咀嚼機能が健常で咬合に問題がない、
パターン I と III 以外を問題があると評価する

咀嚼運動の安定性の評価

咀嚼機能が改善すると咀嚼運動が安定する



咀嚼能力の評価

義歯に満足している有床義歯装着者のグルコースの
溶出量は100mg/dL以上であることが示されている。